

2023

6.21 (水) 12:10
12:50

12:10-12:15

◆ 演者紹介

12:15-12:40

◆ プレゼン

12:40-12:50

◆ 質疑応答

オンライン
(Zoom)

登録はこちら▶▶

https://temdec-med-kyushu-u-ac-jp.zoom.us/webinar/register/WN_PNG8xyaURLupDBj4Fv_bvg

【技術支援】九州大学 Q-AOS & TEMDEC

持続可能な食料・食肉生産を 世界の人たちと考えよう

司会：原田 明 教授 (Q-AOS 副機構長 兼 機構教育統括)



Key Words

食料問題

食肉

ニワトリ

動物発生学

農学国際教育

細胞生物学

中村 真子 教授

九州大学 農学研究院 附属国際農業教育・研究推進センター・大学院生物資源環境学府 動物生命科学分野



大阪生まれ、東京と広島で育ちました。2002年に大阪大学大学院医学研究科で博士号取得後、渡米しアメリカの研究機関で博士研究員として5年間勤務しました。2007年4月に九州大学大学院農学研究院に着任し今年で16年目を迎えます。私たちが食べている食肉を構成する細胞を用いて研究を行っています。現在はニワトリを実験モデルとし鶏肉生産に貢献できるように学生と一緒に研究に励んでいます。また、農学国際教育の推進に取り組んでおり海外短期プログラム開発にも携わっています。私の研究教育活動が次世代研究者育成にも貢献できればと思っており、QURIESプログラムおよびQFC-SP 高大接続プログラムの指導教員でもあります。これまでに4名の高校生の受け入れを行い研究指導した学生は九州大学、大阪大学に進学した実績を持っています。

世界の人々がサステナブルに食べ続けていくにはどうしたら良いのでしょうか？私たちは食べないと生きていくことができません。それにも関わらず食料問題は深刻化しています。私の研究テーマは人間にとって重要なタンパク質源である食肉に注目しています。私が食料問題を解決するため研究者としてどのような取り組みをしているのか、同時に海外協定校と一緒にいる留学プログラムを通じて世界の食料問題を学生にどう伝えているのかをみなさんにご紹介します。